# 多様な担い手と人材が輝く
# 力強い農業・農村をめざして

## 第６期北海道農業・農村振興推進計画

概　要　版

令和３年(2021年)３月

**北　海　道**

# 本道の農業・農村を取りまく社会経済情勢

## ● 世界の情勢

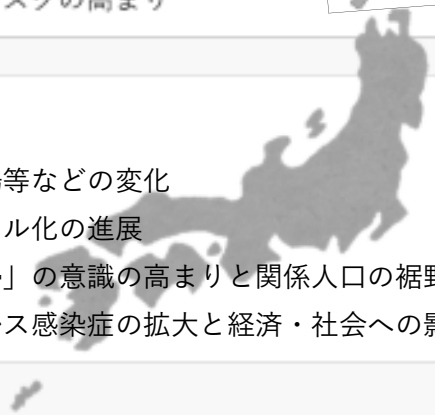
・食料需要の増加と不安定な農産物生産
・日本食への関心の高まりと食市場の拡大
・グローバル化の一層の進展
・持続可能な開発目標(SDGs)の取組の広がり
・新型コロナウイルス感染症の世界規模の拡大

## ● 道内の情勢

・人口減少と都市部への人口の集中
・国内外の交流人口の拡大
・大規模自然災害リスクの高まり

## ● 国内の情勢

・人口減少と食市場等などの変化
・社会全体のデジタル化の進展
・若者の「田園回帰」の意識の高まりと関係人口の裾野の広がり
・新型コロナウイルス感染症の拡大と経済・社会への影響



# 本道の農業・農村の動向と将来展望

## ● 農業構造と経営の動向

平成30年(2018年)現在

・販売農家
　農家戸数：　35,800戸（年々減少）
　農業就業人口：89,300人（年々減少）
・組織経営体：　2,600経営体（増加傾向）
・農業産出額：　12,593億円（増加傾向）
・農業経営体(個別経営)１経営体当たり
　経営規模：　25.4ha（拡大傾向）
　農業所得：　9,507千円（増加傾向）

## ● 農業戸数と農家人口の動向予測

令和12年(2030年)

・販売農家
　農家戸数：　25,000戸（減少）
　世帯員数：　84,000人（減少）
　うち65歳以上の割合：39.0%（増加）

出典：（地独）北海道立総合研究機構農業研究本部
「2015農林業センサスを用いた北海道農業・農村の動向予測」

## ● 農業のデジタル化

・多くの農村地域において光ファイバ整備が加速する見込み
・スマート農業技術の活用により、労働力不足への対応や農業生産の安定化、生産性の向上、品質の高位安定が期待

ロボットトラクター

生産・経営管理システム

搾乳ロボット

センシング技術

＜計画策定の基本的な考え方＞

○ 計画策定の趣旨

本道の農業・農村が様々な変化に適切に対応し、未来に向かって持続的に発展する将来像を「めざす姿」として示し、その実現に向けた施策を総合的かつ計画的に推進していくための共通指針として策定しました。

○ 計画の性格

・ 北海道農業・農村振興条例第６条に基づき策定する道農政全体の基本的な方向や主要な施策を示すもの
・ 農業・農村の目指す将来像の実現に向けた施策の展開方向を示すなど、道農政の中期的指針の役割を果たすもの
・ 国などに対して、政策提案や制度の改善要望を行う際の施策の基本的な方向を示したもの
・ 市町村や関係団体などが主体的な取組を行う際に、参考として活用することを期待するもの

○ 計画期間

令和３年度(2021年度)から７年度(2025年度)までの５か年間

＜計画の推進＞

○ 道の推進体制

庁内部局の横断的な連携を図りながら、効率的で実効性のある施策を推進

○ 市町村や関係団体等との連携・協働

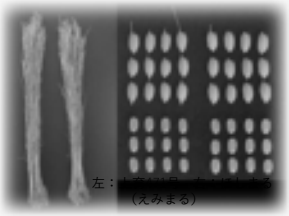
農業者をはじめ道民の主体的な取組を基本に、市町村をはじめ農業団体や他産業関係者、消費者などが、それぞれの役割に応じながら、創意と工夫による連携・協働の取組を推進

○ 進行管理

・ 毎年度の政策評価を通じて、施策の推進状況を点検・評価し、見直しや改善などを実施
・ 計画に基づき実施した施策については、議会に提出する年次報告により、公表
・ 情勢の変化などに応じ、北海道農業・農村振興審議会の意見を聴いて、計画の見直しなど実施

# 本道の農業・農村の価値と強み

## 強み　厳しい自然条件下で培った優れた技術




道総研上川農業試験場
新品種「えみまる」

水稲の温湯種子消毒作業
（JA今金クリーン米研究会（今金町稲作部会））

## 強み　高い食料供給力と「食の北海道ブランド」

大規模畑作経営の作業（斜里町）

「ミルク王国べつかい」の牛乳・乳製品
（㈱べつかい乳業興社（別海町））

## 価値　豊富で多様な地域資源

広大な農村景観（上士幌町）

寒中みそぎ祭り（木古内町）

### ● 農業の技術開発の展望

～（地独）北海道立総合研究機構農業研究本部 ～

豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興や、環境と調和した持続的農業の推進など、外部機関と連携を図りながら研究開発を推進

| | |
|---|---|
| 水　稲 | 極良食味米のブランド米化に向けた高度に安定した食味を持つ品種の開発 など |
| 畑作物 | センシング技術や気象情報等を活用した生産管理支援システムによる安定生産技術の確立 など |
| 野　菜 | 多収いちご品種の開発と栽培体系の確立 など |
| 果　樹 | おうとうの寒冷地向き品種の開発 など |
| 乳用牛 | 供用年数延長を目指した雌牛の飼養管理技術の開発 など |
| 肉用牛 | 早期能力評価法及び効率的増殖技術を採用した種雄牛生産と繁殖雌牛群の改良手法の開発 など |
| クリーン農業 | 総合的病害虫・雑草管理（IPM）や難防除病害虫の防除対策技術の開発、気候変動などによる新規・特異発生病害虫等に対応する技術の再構築 など |

# 本道の農業・農村の役割

### ● 食を支える

消費者ニーズに応えた安全・安心で良質な食料安定的に供給する我が国最大の食料供給地域として、国民の食を持続的に支える重要な役割に期待

### ● 地域と所得を支える

本道農業は、食品加工、運輸、流通・販売、観光など広範な産業と密接に結び付き、道民生活や地域経済を支えるとともに、農村は、緑豊かなゆとりある居住の場としての役割に期待

### ● 多面的機能を発揮する

洪水の防止や水源のかん養など様々な公益的機能の発揮により、道民の生命と財産、豊かな暮らしを守るとともに、地域固有の食や文化の保存・伝承や、生命の大切さなどを理解する教育の場としての役割に期待

農村人口の減少や高齢化により、生産基盤の脆弱化や地域コミュニティの活力低下が懸念される中、ますます高まる本道農業・農村の役割への期待に応えていくためには、生産性の向上はもとより、地域での多様な人材の活躍が欠かせません。

# 本道農業・農村の「めざす姿」

おおむね10年後（2030年頃）の北海道農業・農村が、その価値や魅力を磨き、強みを活かすことで、求められる役割や期待に的確に応えて発展する姿として次のとおり明らかにし、農業関係者をはじめとした道民共通の目標とします。

## 多様な担い手と人材が輝く力強い農業・農村

次世代の農業者をはじめ多様な担い手と人材が活躍し、
北海道の潜在力をフルに発揮することで、
国民全体の食、道民生活や地域経済を支える
力強く魅力ある農業・農村を確立

農業関係者をはじめとした多くの道民と「めざす姿」を共有し、その実現に向けて共に実践していくため、10年後の姿を表す「総合指標」を設定します。

**総合指標**

| 指標名 | 現状値 | 目標値 |
|---|---|---|
| 農業産出額 | 1兆2,593億円 (h30) | 1兆3,600億円 (r12) |
| 食料自給率（カロリーベース） | 196% (H30・概算値) | 268% (R12) |
| 新規就農者数 | 529人 (h30) | 毎年670人 (r12) |
| 農業法人数 | 3,605法人 (h30) | 5,500法人 (r12) |

注：H･Rは年度、h･rは暦年を示す

我が国最大の食料供給地域である本道の農業が、農地等の農業資源、人材、農業技術といった潜在生産能力をフル活用し、我が国の食料自給率の向上に最大限寄与していくとともに、環境と調和した農業を展開し、安全・安心で良質な農産物を消費者や実需者のニーズを踏まえて生産することを基本に、令和12年度（2030年度）を目標とする道独自の「生産努力目標」を設定します。（裏表紙に一覧を記載）

**多様な担い手と人材**

道では、家族経営や複数戸による法人、営農支援組織などを「多様な担い手」として育成を図るとともに、その経営を担う人材の育成・確保を推進しています。

第６期北海道農業・農村振興推進計画では、担い手を支える雇用人材の役割や期待がこれまで以上に高まっていることを踏まえ、経営者や役員、家族従事者、雇用就農者など「多様な担い手」に、パートなどの短期雇用や農福連携、外国人材などを加えた「多様な人材」を計画に位置付けて施策を推進します。

# めざす姿を形づくる４つの将来像

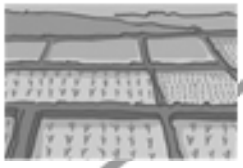
## 将来像１

### 持続可能で生産性が高い農業･農村

◆ 農業生産基盤の強化と農業分野の技術革新が進み、生産性を高めています。

◆ 消費者の信頼に応える安全・安心で良質な食料を安定的に生産しています。

◆ 環境と調和した持続可能な農業を展開しています。



## 将来像２

### 国内外の需要を取り込む農業･農村

◆ 道産農産物等が国内外の食市場で消費者や実需者に選ばれています。

◆ 農村地域の多様な地域資源を活用して、新たな価値が創出されています。

## 将来像３

### 多様な人材が活躍する農業･農村

◆ 家族経営などの農業経営体が、経営体質を強化しながら発展しています。

◆ 経営感覚に優れた多様な担い手が、夢と誇りを持って農業を営み、地域を力強く支えています。

◆ 地域の営農支援組織や農業団体が、農業経営体を持続的に支えています。

◆ 多様な人材が、培った知見や経験、能力を活かし、農業経営体と地域の成長を支えています。

◆ 農業を中心に雇用の場や快適で安全な定住環境が整備され、人々が安心して暮らしています。

## 将来像４

### 道民の理解に支えられる農業･農村

◆ 消費者は、健康や豊かな暮らしを支える「食」の大切さを理解し、農業者との交流を通じてしっかりとした信頼関係を築いています。

◆ 地域住民は、地域の将来像を共有し、コミュニティ機能を高めながら、一体となって豊かな自然環境や美しい農村景観、特有の伝統文化を継承しています。

◆ 道民は、農業・農村の役割や重要性を十分理解し、本道農業・農村をかけがえのない財産として、大切に守っています。

**「めざす姿」の実現に向けて配慮すべき事項**

- 地域の主体性や個性の発揮
- デジタル技術の活用による新たな農業への変革
- SDGsの達成に向けた取組の積極的な推進
- カーボンニュートラルへの挑戦
- 新型コロナウイルス感染症の下での危機克服

「めざす姿」の実現に向けた

# 施策の推進方針と展開方向

将来像１

## 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

### 施策の推進方針

頻発する自然災害や病害虫、家畜疾病など農業の持続性を脅かすリスクへの対応を強化し、農地等の農業資源や農業技術を最大限活用して収量の向上を図るなど、持続可能で生産性が高い農業を展開するため、農業生産基盤の整備や優良農地の確保と適切な利用、戦略的な研究開発と普及・定着など生産基盤を強化するとともに、消費者の期待と信頼に応える安全・安心な食料の安定生産や環境と調和した農業を推進します。

### 施策の展開方向

| | | |
|---|---|---|
| 生産基盤の強化 | 農業生産基盤の整備の推進 | 農業の生産力・競争力強化に向けた農業生産基盤の整備、農業水利施設等の保全管理、農業・農村の強靱化に向けた防災・減災対策 |
| | 優良農地の確保と適切な利用の促進 | 計画的な土地利用の推進、担い手への農地の利用集積・集約化 |
| | 戦略的な技術開発と普及・定着 | 新たな技術の開発と迅速な普及、スマート農業の加速化、試験研究・普及・行政の連携による地域支援 |
| 安全・安心な食料の安定生産の確保 | 安全・安心な食品づくりの推進 | 食品の安全性の確保、リスクコミュニケーションの推進、道産食品の適正な情報提供 |
| | 食料等の安定生産体制の整備 | 需要に応じた生産体制の強化、農業生産工程管理などの推進、農産物の生産・流通の効率化・合理化、自給飼料生産基盤の強化、農業生産資材の安定供給、防疫対策の推進 |
| 環境と調和した農業の推進 | 環境保全型農業の推進 | クリーン農業や有機農業の推進、農業生産活動に伴う環境負荷の低減 |
| | 鳥獣による農作物等被害防止対策の推進 | 地域における総合的な鳥獣被害防止対策の推進 |

基盤整備事業による
ほ場の大区画化

スマート農業技術の導入による
ハウス施設の環境制御

北海道クリーン農業イメージキャラクター
「ハタケダ博士&くりーんだね」

### 取組指標

| 指　標　名 | 現　状　値 | 目　標　値 |
|---|---|---|
| 担い手への農地の利用集積率 | 91％ (H30) | 93％ (R7) |
| GNSSガイダンスシステムの累計導入台数 | 11,530台 (H30) | 26,000台 (R7) |
| 国際水準GAP認証取得数 | 234農場 (H30) | 390農場 (R6) |
| YES!clean農産物作付面積 | 17,734ha (H30) | 20,000ha (R6) |

注：H･Rは年度を示す

将来像 2

# 国内外の需要を取り込む農業･農村の確立

## 施策の推進方針

食市場の変化やニーズの多様化などに対応して、国内外の需要を喚起し取り込むため、ブランド力の強化や輸出を含む農産物等の販路拡大を図るとともに、地域ぐるみで取り組む６次産業化や関連産業との連携強化など地域資源を活かした新たな価値の創出を推進します。

## 施策の展開方向

| | | |
|---|---|---|
| 国内外の食市場への販路の拡大 | ブランド力の強化 | 地域の特性を活かしたブランド化の推進、表示や認証などの推進 |
| | 農産物等の輸出促進 | 輸出促進に向けた取組の総合的な推進、輸出に取り組む産地の育成、HACCPなどに対応した生産・流通体制の整備促進 |
| 地域資源を活かした新たな価値の創出 | 地域ぐるみの６次産業化の推進 | 地域における６次産業化等の推進体制の整備、商品開発や販路開拓、人材育成などの推進 |
| | 関連産業との連携の強化 | 食関連産業、健康長寿・医療関連分野、観光分野との連携 |

地理的表示(GI)保護制度登録産品

工房チーズの品質向上に向けた地域講習会

全国共進会に向けてブランド力を磨く北海道和牛

６次産業化に取り組む人材の育成

## 取組指標

| 指　標　名 | 現　状　値 | 目　標　値 |
|---|---|---|
| 道産食品独自認証制度の認証数 | 52商品 (H30) | 100商品 (R5) |
| 道産農産物・農産加工品（日本酒含む）の輸出額 | 72億円 (h30) | 125億円 (r5) |
| ６次産業化の取組による年間販売金額 | 2,189億円 (H30) | 2,370億円 (R5) |

注：H･Rは年度、h･rは暦年を示す

「めざす姿」の実現に向けた

# 施策の推進方針と展開方向

将来像 3

## 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

### 施策の推進方針

農業・農村に多様な人材が定着し活躍できるよう、家族経営をはじめとする農業経営体の経営安定・発展とともに、新規就農者や経営感覚を備えた農業経営者、地域をリードする女性農業者など農業経営を担う人材の確保・定着、営農支援組織や農業団体など地域で経営体を支える組織の育成・強化を図ります。

また、他産業と遜色のない誰にとっても働きやすい環境を整え、地域農業を支える多様な人材の受入を進めるとともに、所得と雇用機会の確保や生活環境の整備など快適で安心して暮らせる生活の場づくりを推進します。

### 施策の展開方向

| | | |
|---|---|---|
| 農業経営体の安定・発展 | 家族経営などの経営体質の強化 | 生産基盤の強化や農業経営の法人化の推進、セーフティネット対策や経営所得安定対策などの推進、新型コロナウイルス感染症における事業継続対策の推進 |
| | 組織経営体の育成・発展 | 地域農業の法人化や経営の多角化、企業の農業参入や農業関係者との連携推進 |
| 農業経営を担う人材の確保・定着 | 新規就農者の育成・確保 | 職業としての農業への関心の喚起、研修教育や就農支援の推進、円滑な経営継承の推進 |
| | 経営感覚を備えた農業経営者の育成 | 就農後の経営安定と地域への定着促進、経営力・技術力の向上 |
| | 地域をリードする女性農業者の育成 | 女性が能力を発揮できる環境づくりの推進 |
| 地域で経営体を支える組織の育成・強化 | 営農支援組織の育成・強化 | 経営体を支えるシステムづくりの推進、安定的な運営と人材の確保 |
| | 農業団体の機能の充実 | 農業協同組合、農業委員会、農業共済組合及び土地改良区の機能の充実 |
| 地域農業を支える多様な人材の活躍 | 誰にとっても働きやすい環境づくりの推進 | 他産業と遜色のない働きやすい環境づくりによる経営の成長促進 |
| | 多様な人材の受入 | 他産業などとの連携による雇用人材や外国人材の受入、農福連携の推進 |
| 快適で安心して暮らせる生活の場づくり | 所得と雇用機会の確保 | 地域の特色を活かした営農と所得の確保、地域資源を活かした所得と雇用機会の確保、バイオマスなどの利活用の推進 |
| | 快適で安全な生活環境の整備 | 農村地域の生活環境の整備や農業水利施設の安全対策・防災対策の推進 |

### 取組指標

| 指　標　名 | 現　状　値 | 目　標　値 |
|---|---|---|
| 指導農業士の女性の割合 | 8.9% (H30) | 25.0% (R7) |
| 農村ツーリズムの受入活動実践農家の割合 | 7.2% (H30) | 7.5% (R4) |
| 防災重点ため池のハザードマップの策定割合 | 51% (H30) | 100% (R6) |

注：H･Rは年度を示す

将来像 4

# 道民の理解に支えられる農業･農村の確立

## 施策の推進方針

農業・農村に対する道民理解を促進し、本道の農業・農村を貴重な財産として育み、将来に引き継いでいくため、食育や地産地消など愛食運動の総合的な推進や、多面的機能の発揮などに向けて地域住民が一体となって進める活力ある農村づくり、都市・農村交流や農業・農村の魅力の発信など道民コンセンサスの形成促進を図ります。

## 施策の展開方向

| | | |
|---|---|---|
| 愛食運動の総合的な展開 | 食育の推進 | 健全な食生活の実践などに向けた食育の総合的な推進 |
| | 地産地消の推進 | 道産農産物等の地産地消・利用転換の推進と関連産業における活用促進、消費者と農業者の結び付きの強化 |
| 地域住民が一体となって創る活力ある農村 | 地域住民による農村づくり | 地域住民活動の活性化、多様な人材の活躍による地域課題の解決 |
| | 多面的機能の発揮促進 | 地域住民なども参加した共同活動の推進、多面的機能を発揮する環境づくりの推進 |
| 道民コンセンサスの形成 | 都市・農村交流の促進 | 農業・農村に対する理解の促進、関係人口の創出・拡大 |
| | 農業・農村の魅力の発信 | 特色ある地域の魅力の発信、学習機会の充実 |

道産食材を使用したこだわり料理を提供する飲食店などを認定

地域ぐるみで取り組む「農泊ツーリズム」

都市住民との交流活動に意欲的な農業者を登録

地域住民と農業者との交流拠点となる直売所

多面的機能を支える共同活動

農業・農村の魅力を発信する情報誌「confa(コンファ)」

## 取組指標

| 指　標　名 | 現　状　値 | 目　標　値 |
|---|---|---|
| 食育推進計画を作成している市町村数 | 123市町村 (H30) | 全市町村 (R5) |
| 北海道米の道内食率 | 87％ (H30) | 85％以上 (R7) |
| 多面的機能支払の取組面積 | 768千ha (R１) | 768千ha (R7) |
| ふれあいファームに登録している農家の割合 | 2.5％ (H30) | 2.8％ (R7) |

注：H･Rは年度、h･rは暦年を示す

# 地域農業・農村の「めざす姿」

## 1 北海道の米生産をリードする魅力ある空知水田農業

空知地域

主な取組の方向
- ○ 水稲を基本とした複合経営の確立と農家所得向上
- ○ 担い手の育成と多様な人材の確保
- ○ 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進
- ○ 持続可能で活力に満ちた農村の確立

援農ボランティアの取組

## 2 地域を大切に、地域から期待される都市近郊農業

石狩地域

主な取組の方向
- ○ 担い手や多様な人材の確保
- ○ 都市近郊農業を活かした取組の推進
- ○ 地域性を踏まえた生産基盤の維持・強化

女性単独就農予定の研修生

## 3 多様な人材の活躍によるブランド力ある後志農業

後志地域

主な取組の方向
- ○ 多様な担い手や人材の確保・育成
- ○ 生産基盤等の整備と生産性・作業性の向上
- ○ 高付加価値化農業の推進
- ○ 鳥獣被害防止対策

外国人材など多様な人材の確保

## 4 「食の宝庫」を活かして稼ぐ　いぶり農業

胆振地域

主な取組の方向
- ○ 農家所得の向上
- ○ 安定した担い手・人材の確保
- ○ いぶり農業の魅力発信

都市部からの教育旅行の受入

## 5 未来へつながる、魅力あふれる日高農業

日高地域

主な取組の方向
- ○ 生産力・収益力の高い魅力ある農業の展開
- ○ 強い馬づくりの推進
- ○ 新規就農者の育成・確保と雇用人材の確保
- ○ 家畜伝染病の発生・まん延防止対策の推進

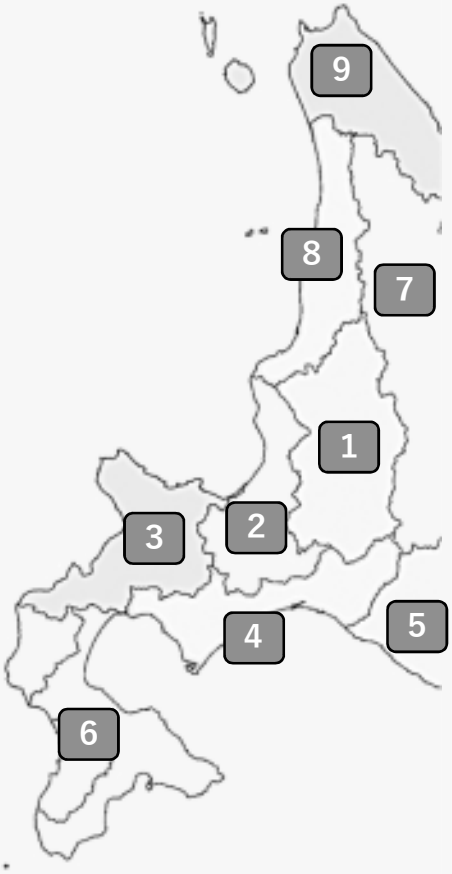
共同利用組合設立による作業の共同化

## 6 小さくとも「キラリと輝く！！」道南農業

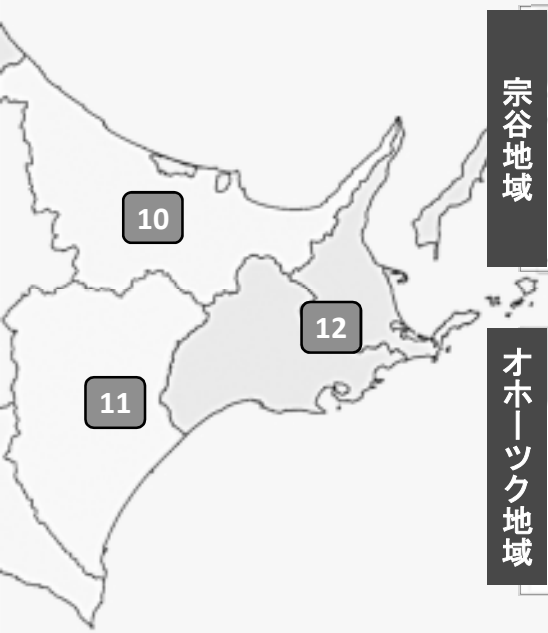
渡島・檜山地域

主な取組の方向
- ○ 農業生産基盤の強化と広域的な生産体制の整備
- ○ 経営の安定化と多様な担い手の育成・確保
- ○ 消費者ニーズを的確に捉えた地域ブランドの確立

醸造用ぶどうの栽培



地域農業・農村の「めざす姿」は、総合振興局・振興局が、農業者や市町村、農業団体等の地域関係者とともに、おおむね10年後を見据えた地域農業・農村の目指すべき将来像と、その実現に向けた主な取組の方向を検討し、明らかにしたものです。




## 上川地域

### 将来の担い手に選ばれる 輝く上川の農業・農村 7

**主な取組の方向**

- ○ 担い手と雇用人材の確保
- ○ 高収益化の推進
- ○ 豊かで魅力ある農村の確立

高校生を対象とした研修会

## 留萌地域

### 夢と希望に満ちた「バラエティ豊かな」留萌農業 8

**主な取組の方向**

- ○ 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保
- ○ 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立
- ○ 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

るもい農業基礎ゼミナール

## 宗谷地域

### “最北”の強みを活かし、未来を担う人材が活躍する宗谷酪農 9

**主な取組の方向**

- ○ 多様な経営体の生産性向上
- ○ 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域の確立

SOYAルーキーズカレッジ

## オホーツク地域

### オホーツクの広大な大地で“クール”に農業 10

**主な取組の方向**

- ○ 持続可能で先進的な農業の展開
- ○ 経営体を支えるシステムの推進
- ○ オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着
- ○ オホーツク農業のブランド力向上

研修機能付き生産法人の設立

## 十勝地域

### 日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝 11

**主な取組の方向**

- ○ 多様な人材が活躍する農業・農村
- ○ 安定的な食料の生産・供給拠点の形成
- ○ ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大
- ○ 新たな価値を生み出す科学技術等の活用

退職予定自衛官向けインターンシップ

## 釧路・根室地域

### 我が国の酪農を牽引し続け、次の世代が夢をもつことのできる農業・農村 12

**主な取組の方向**

- ○ 草地型（循環型）酪農の推進
- ○ 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保
- ○ 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

子育て支援施設「えみふる」

# 主要品目の生産努力目標

農業生産に関する道内関係者の共通の目標として、その達成に向けた総合的な取組を推進します。

（単位：ha、頭、kg/10a、kg/頭・年、t）

| 主な主要品目 | | | 生産努力目標 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 現況(H30) | 目標(R12) |
| 米 | 主食用米 | 作付面積 | 98,900 | 91,900 |
| | | 10a当たり収量 | 495<br>(548) | 565 |
| | | 生産量 | 489,600<br>(542,000) | 519,235 |
| | 加工用米・輸出用米・備蓄米 | 作付面積 | 5,000 | 10,300 |
| | | 10a当たり収量 | 495 | 565 |
| | | 生産量 | 24,800 | 58,195 |
| | 飼料用米・米粉用米等 | 作付面積 | 2,400 | 3,800 |
| | | 10a当たり収量 | 577 | 715 |
| | | 生産量 | 11,000 | 20,735 |
| | （参考） | 作付面積 | 106,300 | 106,000 |
| 小　麦 | | 作付面積 | 121,400 | 121,000 |
| | | 10a当たり収量 | 388<br>(460) | 522 |
| | | 生産量 | 471,100<br>(558,000) | 631,500 |
| | 日本めん用他 | 作付面積 | 88,860 | 86,000 |
| | | 10a当たり収量 | 431 | 550 |
| | | 生産量 | 382,800 | 473,000 |
| | パン・中華めん用 | 作付面積 | 32,540 | 35,000 |
| | | 10a当たり収量 | 271 | 453 |
| | | 生産量 | 88,300 | 158,500 |
| 大　豆 | | 作付面積 | 40,100 | 40,000 |
| | | 10a当たり収量 | 205<br>(237) | 250 |
| | | 生産量 | 82,300<br>(95,000) | 100,000 |
| そ　ば | | 作付面積 | 24,400 | 21,000 |
| | | 10a当たり収量 | 47<br>(68) | 85 |
| | | 生産量 | 11,400<br>(16,600) | 17,900 |

| 主な主要品目 | | 生産努力目標 | |
|---|---|---|---|
| | | 現況(H30) | 目標(R12) |
| てん菜 | 作付面積 | 57,300 | 57,400 |
| | 10a当たり収量 | 6,300<br>(6,290) | 6,410 |
| | 生産量 | 3,611,000<br>(3,600,000) | 3,680,000 |
| 馬鈴しょ | 作付面積 | 50,800 | 51,000 |
| | 10a当たり収量 | 3,430<br>(3,610) | 3,940 |
| | 生産量 | 1,742,000<br>(1,830,000) | 2,009,000 |
| 野　菜 | 作付面積 | 52,624 | 52,810 |
| | 10a当たり収量 | - | - |
| | 生産量 | 1,532,909 | 1,688,720 |
| 果　実 | 作付面積 | 2,846 | 2,870 |
| | 10a当たり収量 | - | - |
| | 生産量 | 15,009<br>[19,307] | 19,810 |
| 飼料作物 | 作付面積 | 589,100 | 589,100 |
| | 10a当たり収量 | - | - |
| | 生産量 | 19,975,000 | 22,104,000 |
| 乳用牛 | 飼養頭数 | 801,000 | 837,000 |
| | うち経産牛 | 464,000 | 491,000 |
| | 一頭当たり乳量 | 8,568 | 9,000 |
| | 生　乳 | 3,967,000 | 4,400,000 |
| 肉用牛 | 飼養頭数 | 512,800 | 552,000 |
| | うち専用種 | 188,700 | 198,700 |
| | うち乳用種 | 324,100 | 353,300 |
| | 牛　肉 | 91,228 | 94,000 |

注：「10a当たり収量欄」の( )は、平成30年(2018年)の平年収量を参考記載
「生産量」欄の( )は、現況(H30)の作付面積に平成30年(2018年)の平年収量を乗じた数値を参考記載
「生産量」欄の[ ]は、現況(H30)の作付面積に前年(平成29年(2017年))の平年収量を乗じた数値を参考記載